

令和7年度SDGs未来都市等成果報告会（11.14開催）

地場産品を活用した子育て支援

北海道厚沢部町（2024年度地方創生SDGs課題解決モデル都市選定）



● 地域の特徴（取組を発想した背景）

北海道の南西部に位置する、厚沢部町。3本の川が流れて、天然の鮎やヤマメ、イワナなどが生息できる清流がある水に恵まれた地域である。そんなミネラルが豊富な川に見守られた肥沃な大地が育まれているからこそ、農作物もおいしく育つ。そのように食の豊かな厚沢部町だが、日本の中でも早くから過疎が進んでいる。20年前と比べて、約70%まで人口が減少し、これはさらに年々減り続けていくことが予想されてる。また、子育て世代の流出に伴い、子育て世帯数、出生数も同時に減ってきている。

若年層の人口流出が課題となる中、感受性が育まれ始める幼少期に、厚沢部町での豊かな農産物を食してもらうことで、長い人生の中で、家族全員にとって厚沢部町を特別な思い入れのある地域へと育てていく取り組みが必要となる。

厚沢部町では、2022年度に株式会社キッチンハイクと連携して「保育園留学」を実施するなど、関係人口の拡大を図っている。



●取組の内容と成果

中学生以下の子どもがいる世帯を対象に町内産米を贈る子育て支援事業を実施

【対象者数】293件

【申請件数（発送数）】は285件

【申請率】 97.2%

●発送・申し込み体制の構築

町民向けにお米ギフトカード・事業概要や事業目的のわかる案内チラシを作成。株式会社キッチハイクが提供するeギフトシステムの導入で申込フローをデジタル化、紙ではなくスマホで申込が完結する仕組みを導入。

好きな農家の米を選べるeGIFT



- ✓ 住民さま自身が農家を選んで受け取ることが可能です。
- 農家の顔や想いを知ることですべて子育て家庭の愛郷心を育無とともに農家にとっても励みとなります。

●取組の内容と成果

●「あっさぶこどもみらい新聞」

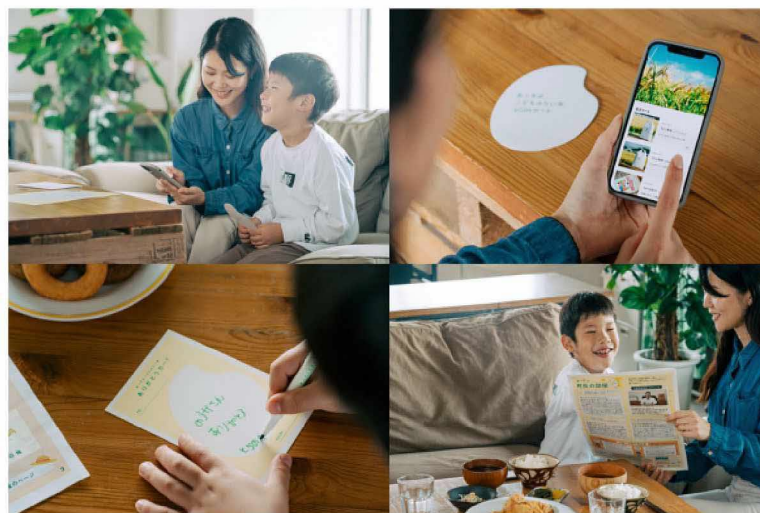
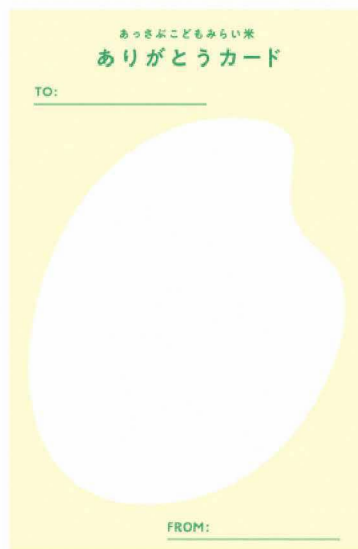
お米のほかに、あっさぶ米が食卓に届くまでや、米農家、町内飲食関連の方々、厚沢部町長などのインタビューを子どもが読んでも分かりやすい内容とした「あっさぶこどもみらい新聞」を配布。



●取組の内容と成果

●「ありがとうカード」

米農家へありがとうを伝える「ありがとうカード」を同封。お米を受け取った家族からは、「とっても美味しくて満足しています。物価高の中、美味しいお米をいただけるのはとても助かります。家族で味わっていただきます。ありがとうございました」、「子供達にも、厚沢部産のふっくりんこだよと話して食べました」などの声を多数いただいた。



●米農家の反応

「多くの方から美味しいとの声が届くのは、とても嬉しい」、「翌年の予約購入にもつながりました」との声をいただきました。また、連携した農家においては、地元道の駅においてもお米を販売しており、「本事業実施後に売り上げが伸びている」との声もいただき、地場製品の消費拡大につながった。

●アンケート

75%の方が、「今回の取り組みを通して、厚沢部産のお米の購入を増やしたい」とし、12.5%の方が、「購入を増やし、人にも勧めたい」と答えていた。

● 困難やつまずきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

● 本事業にご協力いただける地域内のお米農家の確保に苦戦

本事業は農家さんが申し込みに応じて封函、発送する仕組み。これが負担となるとのことで消極的となる農家が多数。

そこで、いくつかの農家さんへ個別に声掛けをしたところ、なんとか2社の農家さんを確保することができた。

厚沢部町のお米農家の皆様へ
あっさぶ子育て支援ギフト事業 運営事務局より
2024年7月5日

～「あっさぶのお米」を贈り、まちの未来の希望を育む子育て施策～
あっさぶ子育て支援ギフト事業に
参加しませんか？ 米農家を募集中！



◎はじめに

はじめまして、こんにちは。株式会社キタハタの展覧と申します。
本事業の運営事務局として、企画開発やPR、発注取りを担当いたします。

弊社は「保育園留守」などの地域創生事業に取り組んでおります。「保育園留守」に参加するご家族からあっさぶのお米が美味い！という声がたくさん届いている中で、米農家のみなさんと連携して厚沢部の未来につながる仕組みを作りたい、という想いでこの事業に携わっています。

この事業は、厚沢部町が子育てしやすい町を目指した新たなチャレンジです。一緒に未来をつくりたい、そんな農家さんからのご連絡を心よりお待ちしております。

◎「あっさぶ子育て支援ギフト事業」とは



「あっさぶ子育て支援ギフト事業」は、中学生以下の子どもがいる世帯を対象に町内産米を贈る事業です。対象の子育て世帯に案内を送付し、そこから町内のお米農家の好きな米を選んで申し込むと、選んだお米を贈る仕組みです。

物産高騰の影響を受けている子育て世帯の家計を食の面で助けると共に地場産品の消費拡大を図りながら、子育て世帯の新たな移住者の呼び込みにもつながると考えています。

<子育てギフト配布概要>

- 配布時期：2024年8月中旬～
- 配布対象：厚沢部町に在住する、中学生以下の子どもがいる世帯
- 配布物：厚沢部町内で育てられた新米（送料込みで約3,000円分）

<事業の流れイメージ>



地域経済を活性化し、子育て世帯にやさしい町というPRに、関係人口の増加や新たな移住者の呼び込みなどにつながる

<配布するお米ギフトのイメージ>

WEBから申し込み、お米のカatalogギフトを配布。各商品の中から、子育て世帯が好きなお米を選んで申し込む仕組み



◎参加方法 ※申込期限：2024年8月9日(金)

参加希望の方は、下記の連絡先でメール(またはお電話)でご連絡ください。
本事業が目指す想いに共感し、共に取り組める方のご参加をお待ちしています。

<参加条件>

- ①厚沢部町内でお米を生産している農家・事業者
 - ②この事業の目的や想いに共感できる方
 - ③約3,000円分のお米を30～100名程度の世帯にご対応できる方(農産物検査簿を予定)
 - ④キタハタ社からのオンラインでの発注にご対応できる方(メール&Web)
 - ⑤キタハタ社からのインタビュー・ヒアリングにご対応できる方
- ※具体的な発送数量や時期、方法については別途相談可能です。

● 推進体制（ヒト・カネ・モノ）の整備方法

【事業費用】

業務委託料 1,980,000円

<町>

- ・事業全体統括
- ・業務の発注
- ・町民への周知及び対象世帯への案内等配布

<事業者>

- ・業務受託によるプロジェクト進行
- ・チラシ、LP等の作成
- ・J A 及び米農家との連携
- ・お米発送関連管理

<アドバイザー>

- ・事業全体への助言等

● 庁内調整・外部調整の工夫

- 本事業の対象となる世帯の把握
 - 町内のお米農家の把握
- 庁内で関係課と連携し、各種情報を整理。

※委託により円滑な事業の実施が可能となった。

● SDGsの視点と政策をどのように結びつけたか

本事業は、子育て世帯への物価高騰対策につながるほか、農業産出額の向上に寄与する。さらに、子育て支援ギフトを通じた地域振興策を展開することが将来の人口減少課題への有効な対策となります。

【関連するゴール】



●SDGsの取組を推進して良かったこと・周囲の反応など

〈事業に参加した農家〉

・「多くの方から美味しいとの声が届くのは、とてもうれしい。道の駅で販売などをしていますが、直接感想を聞ける機会が少ないので貴重な機会となりました。今後続くことを願います。」

・「知らなかった人から美味しかったと声をかけてもらうなど、道の駅などで直接感謝の言葉を受け認知が広まりました。さらに翌年の予約購入にもつながりました。」

〈住民の声〉

・とても美味しくて満足しています。物価高の中、美味しいお米をいただけるのはとても助かります。

・保育所以外で米農家さん、地域おこし協力隊などの事を色々知ることができました。

・子供たちと厚沢部産ふっくりんこだよと説明しながら食べました。

・食べ盛りの子どもが4人いるので大変助かりました。

など



●今後の展望・他地域への展開

子育て世帯以外（高齢者、単身者など）への応用やお米以外の地域産品への展開（野菜セット、加工品など）なども視野に入れながら、経済支援策を契機に地域活性化につなげていきたい。

また、農家自体の高齢化に伴い、取り組みに対する理解はあるものの、個々による発送の負担等から連携に至らなかったケースもあり、今後は、これら負担軽減を図りながら事業実施を検討していきたい。

●その他



●メークイン発祥の地厚沢部町

大正14年に町内にあった試作場で「メークイン」が初めて試験栽培されました。今年で100年。今年は様々な記念行事が行われた。

例年開催されるあっさぶふるさと夏まつりでは、あっさぶメークインを使ったジャンボコロッケを揚げる様子を一目見ようと多くの方が訪れる。コロッケが鍋に投入される瞬間は圧巻で、2022年には総重量279Kgものジャンボコロッケの作成に成功しギネス認定された。

厚沢部町では古くからお米のほかにメークインを中心に畑作が行われてきた。これからも特産の「あっさぶメークイン」を守り続けていく。

